

Title	科学コミュニケーションを考える - サイエンスカフェ 1 -
Author(s)	
Citation	JAIST社会イノベーション・シリーズ, 1
Issue Date	2008-03
Type	Others
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/4853
Rights	
Description	

■ そもそもサイエンスカフェとは？

サイエンスカフェとは喫茶店等の寛いだ雰囲気の中で科学の専門家と市民が同じ目線で対話を行う場のことです。1998年にイギリスのリーズで始まったカフェシアンティフィックが起源とされています。その後、欧米諸国を経て日本では2005年に東京の下北沢で東京大学の研究者らを中心に初めて開催されました。

文部科学省、日本学術会議等の政府機関も新しい

タイプの科学コミュニケーション活動として科学技術振興機構(JST)等を通じて積極的に支援を進めています。

本学 COE プログラムにおける「サイエンスカフェ石川」は活動を通して専門家の知見や大学の研究により得られた成果を発表し、北陸地域の声を本学の研究にフィードバックすることで、両者の相互交流・相互理解を目指しています。

■ 今後の展望

本 ソーシャルイノベーションシリーズの続編で、この後の展開、応用分野を紹介します。本学で始まった「サイエンスカフェ石川」は、本学学生・若手研究者と地域の人々を繋ぐ架け橋として、同時に地域の課題を解決する端緒としての可能性を持つに至ったのです。



「知識科学に基づく科学技術の創造と実践」とは？

「21世紀 COE プログラム」とは、日本に世界最高水準の研究教育拠点(center of excellence)を形成し、研究水準の向上と世界をリードする創造的な人材の育成を図るため、平成14年度から文部科学省が実施している事業。「知識科学に基づく科学技術の創造と実践」は、本学で採択された最初の COE プログラムであり、平成15年度から始まって今年が5年目、すなわち最終年度にあたる。本プログラムでは先端科学技術の研究の場、さらに社会のあらゆる状況において、イノベーションを起こすための知識創造プロセスの研究、そして、それを担う人材としての「知のコーディネータ」「知のクリエイタ」育成に取り組んでいる。文理融合を、マテリアルサイエンス研究科(理系)と知識科学研究科(広い意味での文系)の連携プロジェクトという形で実践している点が、本 COE の大きな特色である。

JAIST 社会イノベーション・シリーズ No.1

発行 2008年3月

発行所 国立大学法人 北陸先端科学技術大学院大学・科学技術開発戦略センター
〒923-1292 石川県能美市旭台1-1 知識科学研究科棟Ⅱ7階

■本誌に関するご意見、お問い合わせ

TEL: 0761-51-1839 FAX: 0761-51-1767 E-mail: coe-secr@jaist.ac.jp

本誌は、文部科学省21世紀 COE プログラム「知識科学に基づく科学技術の創造と実践」の助成を得て発行しております。



北陸先端科学技術大学院大学

JAIST SOCIAL INNOVATION SERIES

社会イノベーション・シリーズ 1

科学コミュニケーション を考える ー サイエンスカフェ 1 ー



北陸先端科学技術大学院大学が企画運営する「サイエンスカフェ石川」は、専門家の知見や大学の研究により得られた成果を発表し、地域の声を研究にフィードバックすることで、両者の相互交流・相互理解を目指します。

No. 1

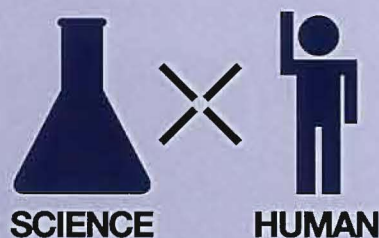
SCIENCE CAFE ISHIKAWA

サイエンスカフェ石川設立の経緯

サイエンスカフェ石川が発足したきっかけは、2005 年春に北陸先端科学技術大学院大学・科学技術開発戦略センターに、「学際コミュニケーション研究会」が設置されたことにあります（写真はの様子です）。異なる立場の人を繋ぎ、学際・分野横断研究の方法と問題を模索する研究会活動の中で、サイエンスカフェのコンセプトに注目が集まり、「北陸の地でもサイエンスカフェを開きたい」という意識が高まりました。

そこで、研究会では新たに学内に「学際コミュニケーションカフェ」を設置し、学問分野をまたぐテーマで、気軽な語り合い、話し合いを図る実践の場を作りました。

こうした活動を基に、2005 年 10 月 2 日に「JAIST SCIENCE CAFE 実行委員会」が発足し、国内の先駆的なサイエンスカフェ活動の視察、ファシリテータの勉強会などを通し、サイエンスカフェへの理解を深めていきました。同月 29 日～ 30 日に行われた石川県立大学学園祭にサイエンスカフェを出展し、北陸初となるサイエンスカフェの開催を実現しました。



そして北陸先端科学技術大学院大学は北陸地域で初めてサイエンスカフェを実現しました。

金沢大学と本学の二つの COE が交流

最初のサイエンスカフェにおいては 1 日目に金沢大学 21 世紀 COE プログラム「環日本海域の環境計測と長期・短期変動予測」で黄砂の研究をされている佐藤努助教授が、黄砂の問題について幅広い視点を交え話題提供を行いました。同じ石川の地において 21 世紀 COE プログラムを展開する 2 大学が初めて交流の場を形成したのです。COE 拠点同士の交流はこの 2005 年の段階では先駆的な意義があったといえます。

2 日目は知識科学研究科・博士後期課程の千原かや乃さんと宮下明珠さんが、環境に配慮した商店や景観の美しい街並みなどを標記した国際標準の環境地図

「グリーンマップ」について話題提供を行いました。各テーブルにはファシリテータを含め来場されたさまざまな立場の参加者 5 名前が着席。専門の研究者であるゲストスピーカーのトークの後にテーブルごとにディスカッションを行い、意見や疑問点を簡単にまとめて発表しました。両日合わせて 60 名程度の地域の市民の参加を得ることができました。

この最初の試みが核となり、本 COE プログラムを支えるポスドク研究員、RA、LA 等の若手研究者達を基盤として「サイエンスカフェ石川」が発足したのです。

石川県立大学からは、この後毎年大学祭への参加依頼がサイエンスカフェ石川に来るようになりました。

表 サイエンスカフェ石川の軌跡（敬称略 2008 年 3 月現在）

年度	テーマ	話題提供者
2005 年度	第 1 回 2005 年 10 月 29 日 / 30 日 「石川地域の環境・人・今」	佐藤努 金沢大学助教授 千原かや乃 北陸先端科学技術大学院大学 知識科学研究科他
	第 2 回 2006 年 3 月 23 日 「ケータイ安全・安心ミッション」	浅野浩央 北陸先端科学技術大学院大学 知識科学研究科 株式会社 NTT ドコモ北陸研修インストラクタ
2006 年度	第 3 回 2006 年 6 月 3 日 「相対性理論は間違っているか？～疑似科学、思いこみの科学～」	松田卓也 神戸大学名誉教授 Japan Skeptics 会長 宇宙物理学者
	第 4 回 2006 年 10 月 28 日 / 29 日 「風土からみた地域再生」	平松章男 北陸先端科学技術大学院大学 知識科学研究科 千原かや乃 北陸先端科学技術大学院大学 知識科学研究科
2007 年度	第 5 回 2007 年 5 月 26 日 「カフェでサイエンス—JAIST 生の新しい取り組み—」	宮下明珠 北陸先端科学技術大学院大学 知識科学研究科
	第 6 回 2007 年 8 月 7 日 「液体窒素ってなんだろう？～「-196℃の世界へ」～」	宮崎幹基 北陸先端科学技術大学院大学 マテリアルサイエンス研究科
	第 7 回 10 月 27 日 / 28 日 「アートのパワー」	養 豊 金沢 21 世紀美術館 特任館長 永井由佳里 北陸先端科学技術大学院大学 准教授
	第 8 回 2 月 23 日 「やさしいホテルの光と、癒しの茶室空間」	小林豊 北陸先端科学技術大学院大学 知識科学研究科

「サイエンスカフェ石川」ホームページ <http://www.jaist.ac.jp/coe//cafe/>

「サイエンスカフェ石川」の特色と、その後の発展

サイエンスカフェ石川の特色は、第一に上記のように本学の学生や若手研究者らの自発性と創意によって支えられているという点です。話題提供者の選出やカフェ運営の主要な担い手である「ファシリテータ」の育成も、本学知識科学研究科の近藤修司教授の指導を受け、自律的に進められています。こうしたボトムアップ型の活動こそが本 COE の最重要目標である「知のコーディネータ」育成の場として機能し、

アクティビティの高い若手研究員を育てることができたのです。

以上の取り組みは、2006 年度下期に本学が立地する能美市の注目を集めました。能美市企画情報課から公的な助成の申し出を受けたのです。能美市民と本学との交流の場として期待できるという評価を得ることができたのです。翌 2007 年度より正式に能美市学官連携協定の課題として資金面での助成を受託することができたのでした。



2005 年 10 月 29 日と 30 日の石川県立大学における最初のサイエンスカフェ「石川地域の環境・人・今」の様子